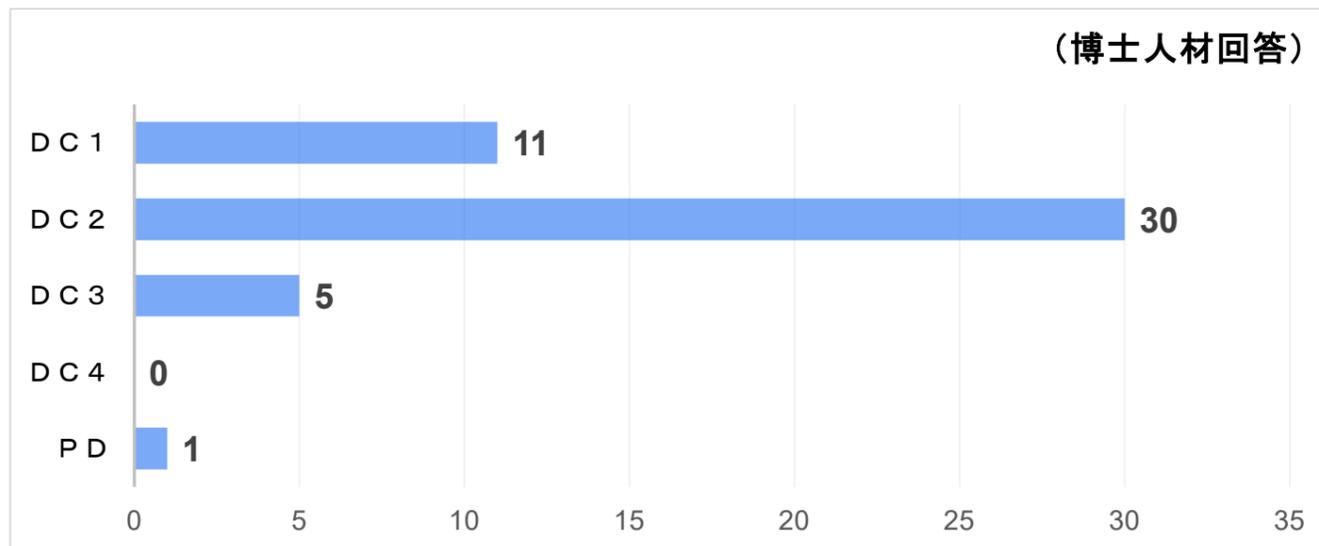


第46回 (R3第1回) 赤い系会 アンケート (博士人材・企業)

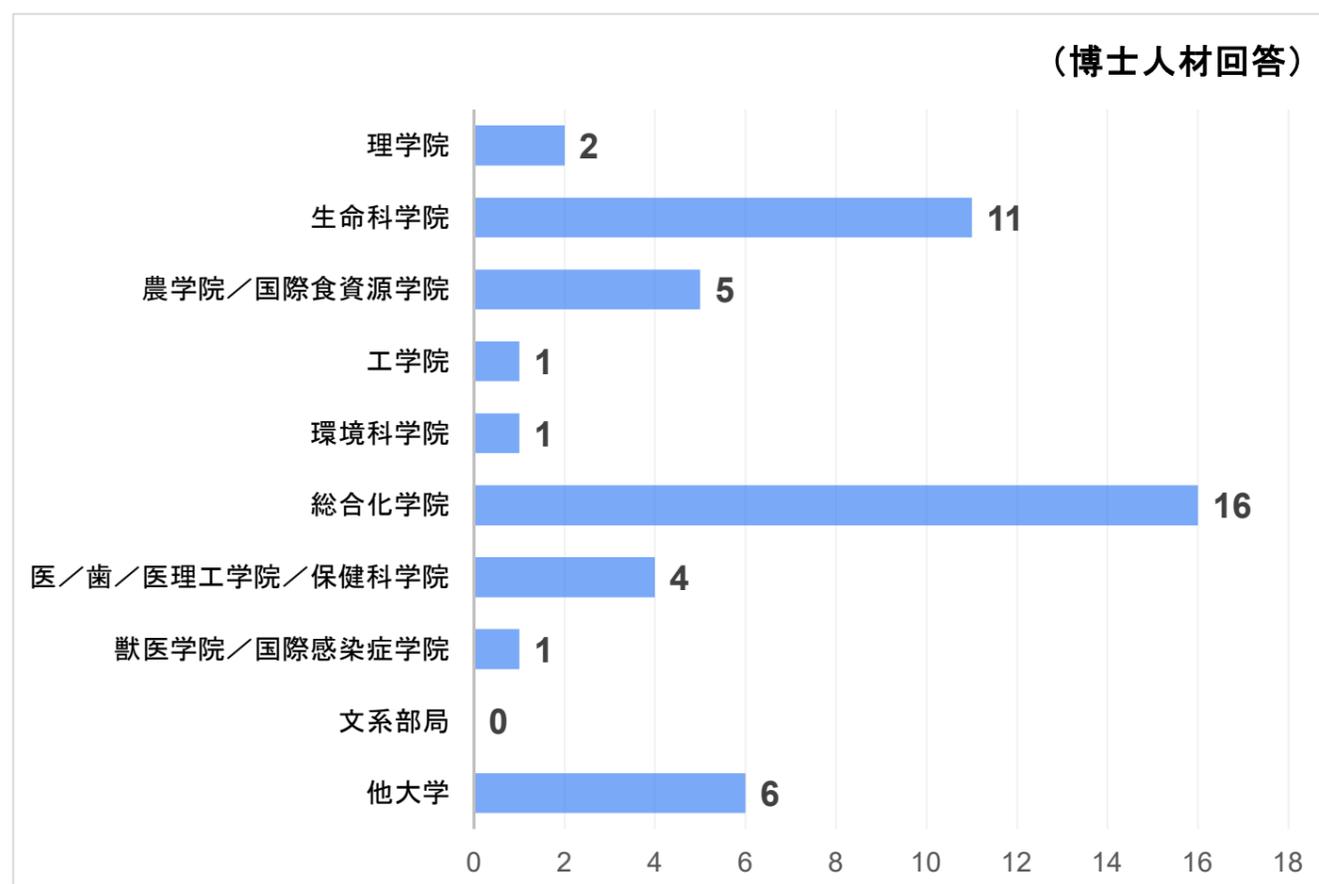
[1] 回答者数:博士人材47名・企業22名(参加数:博士人材44名・企業20社)

※博士人材について一部プログラム欠席者は参加者としてカウントせず

学年(博士人材)

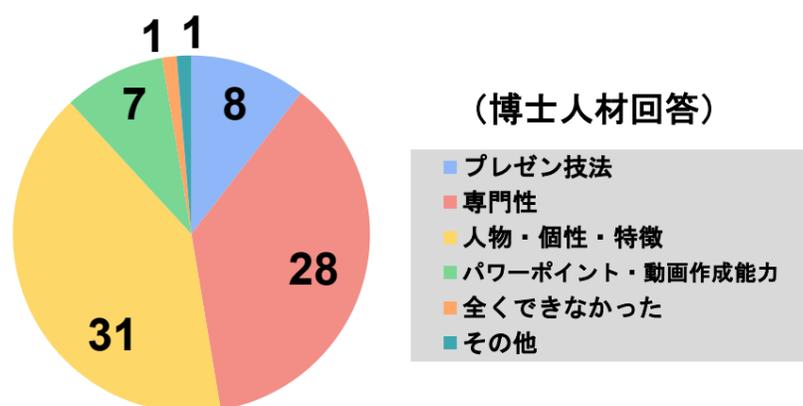


所属(博士人材)

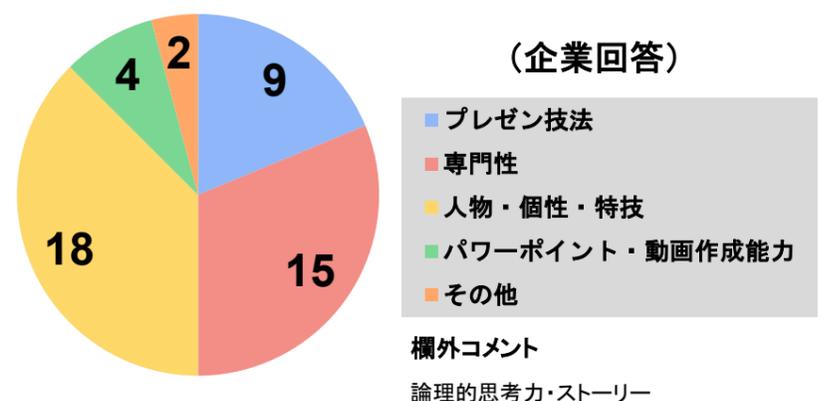


[2] プレゼンテーション動画について

【アピールできた点(博士人材)】



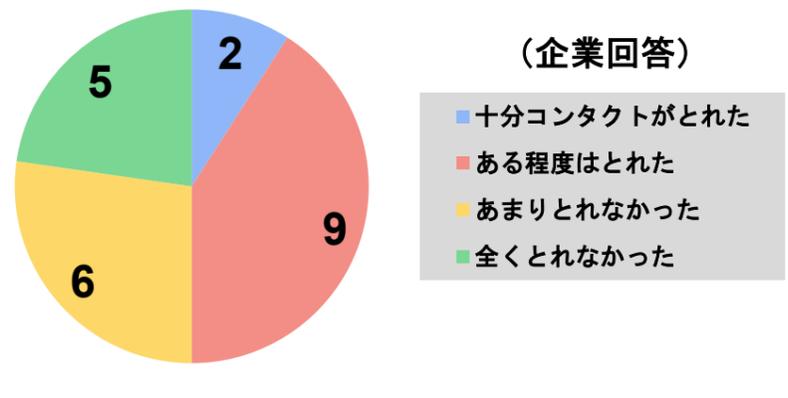
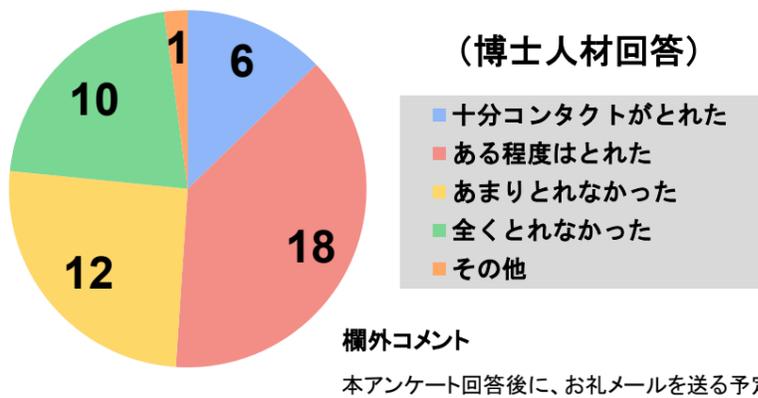
【注目する点(企業)】



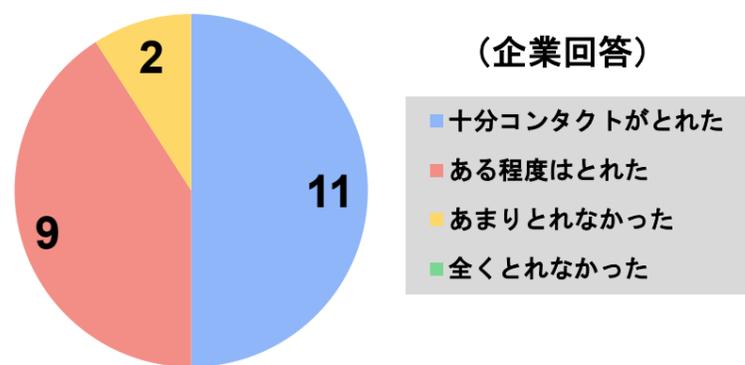
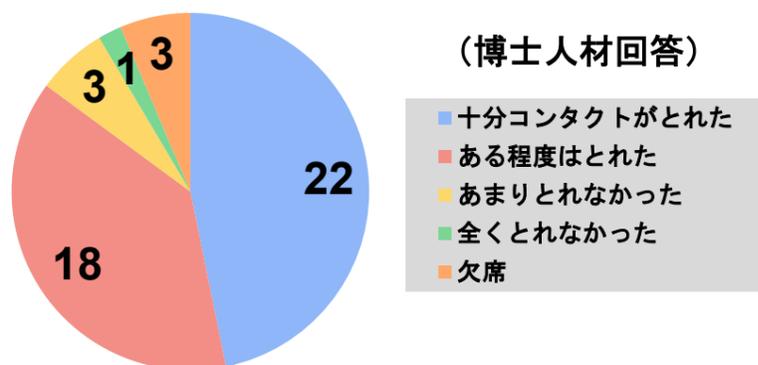
欄外コメント
論理的思考力・ストーリー

[3] 企業/博士人材とコンタクトがとれましたか

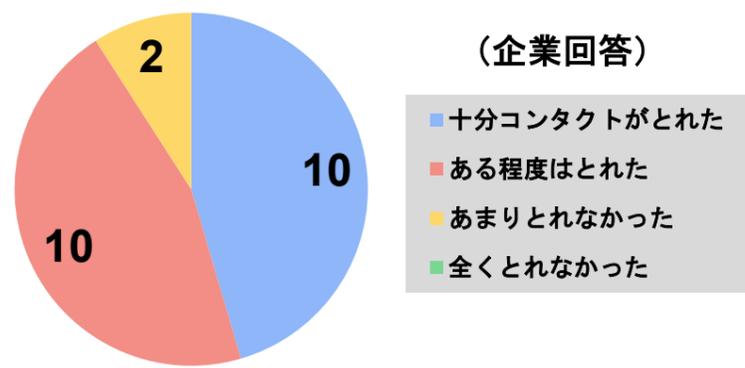
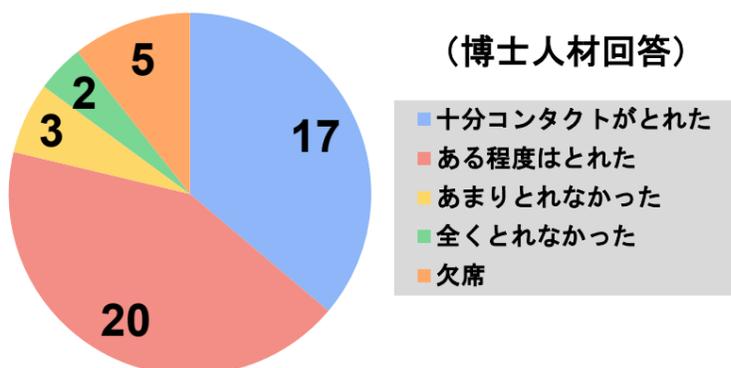
【連絡先一覧／動画配信サイト】



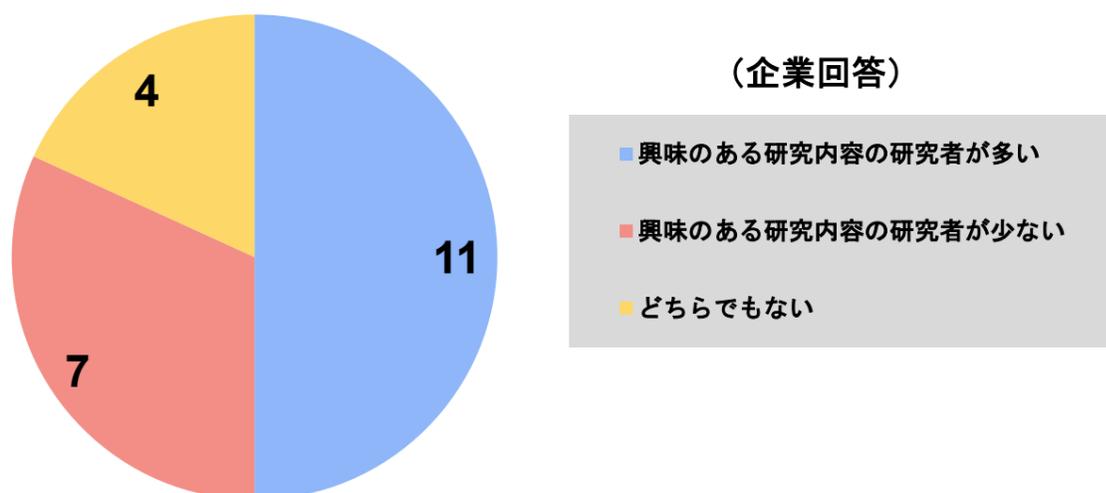
【個別交流会／Zoom】



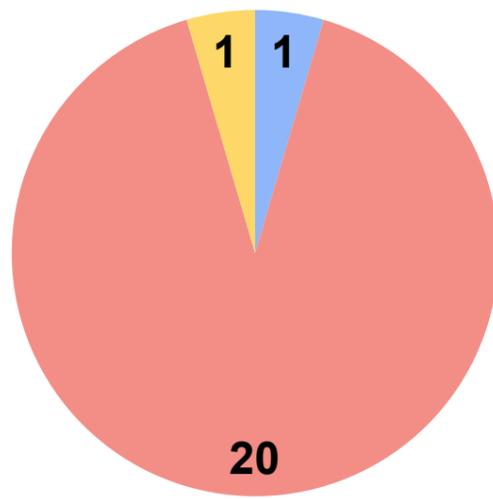
【懇親会／SpatialChat】



[4] 興味のある博士人材はいましたか(企業のみ)



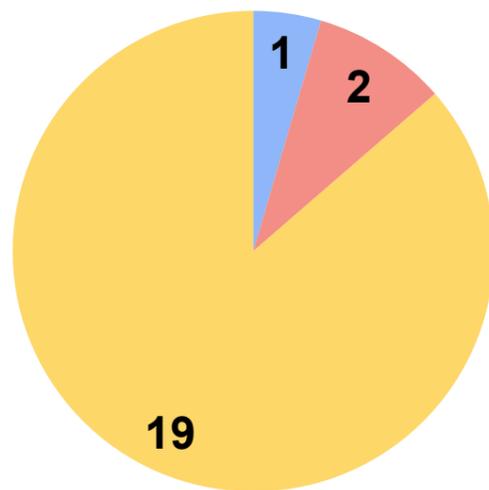
[5] 参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください(企業のみ)



(企業回答)

- 採用したい研究者がいたので、今後交渉を進めたい
- 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい研究者がいた
- コンタクトを取りたい研究者はいない

[6] インターンシップについて(企業のみ)

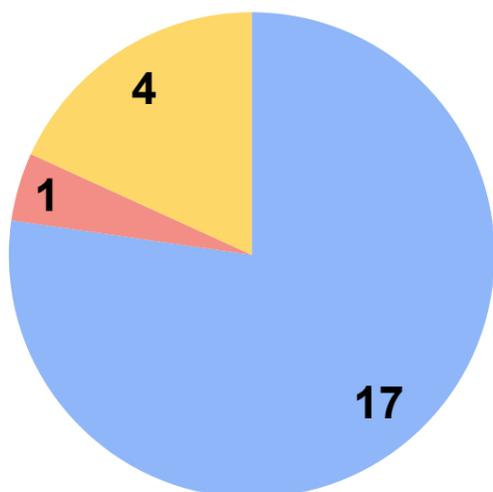


(企業回答)

- 受け入れを表明している
- 受け入れてもよい
- 受け入れは難しい

受け入れを表明している企業
古河電気工業株式会社

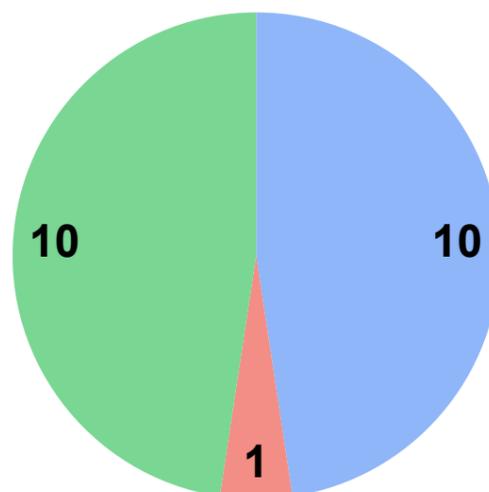
[7] PD・DC採用について(企業のみ)



(企業回答)

- 定期的採用したい
- 時期に関わらず、採用したい
- 採用については未定

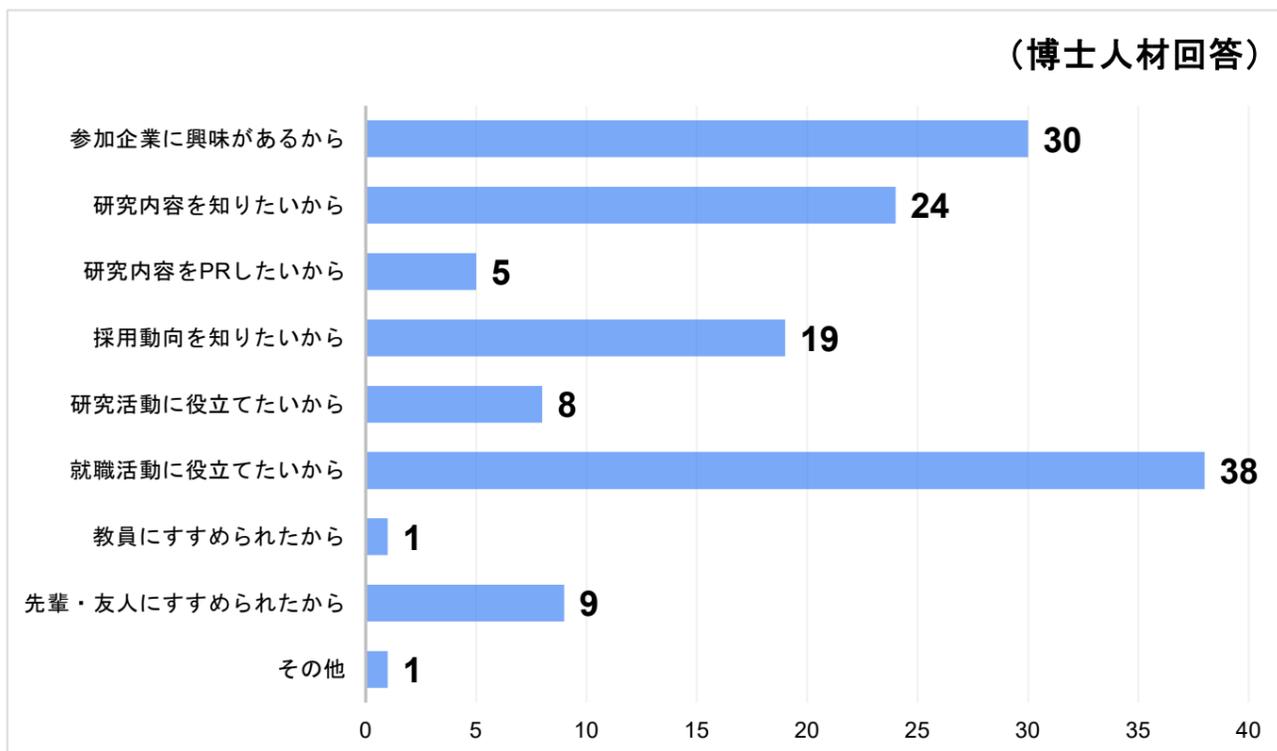
[8] Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)はどのように利用していますか?(企業のみ)



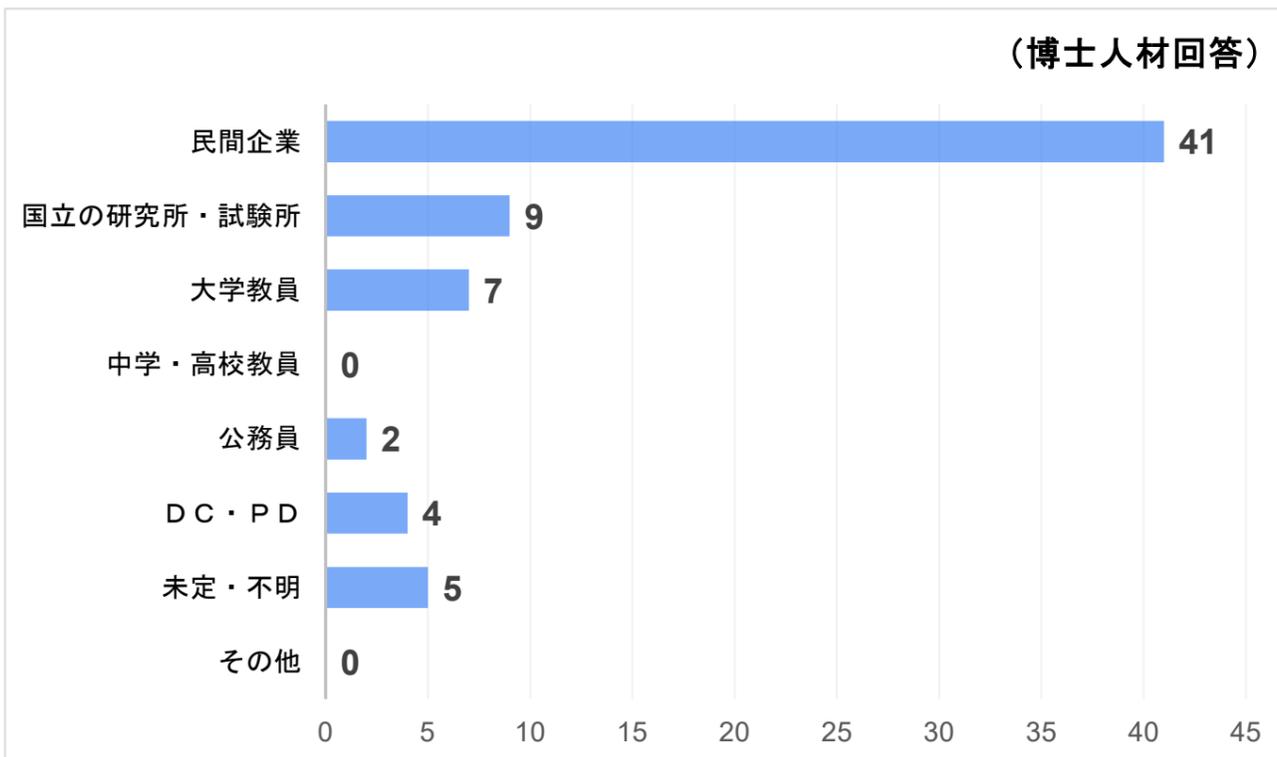
(企業回答)

- イベント参加
- コミュニティ
- 研究者検索
- 利用していない
- その他(具体的に)

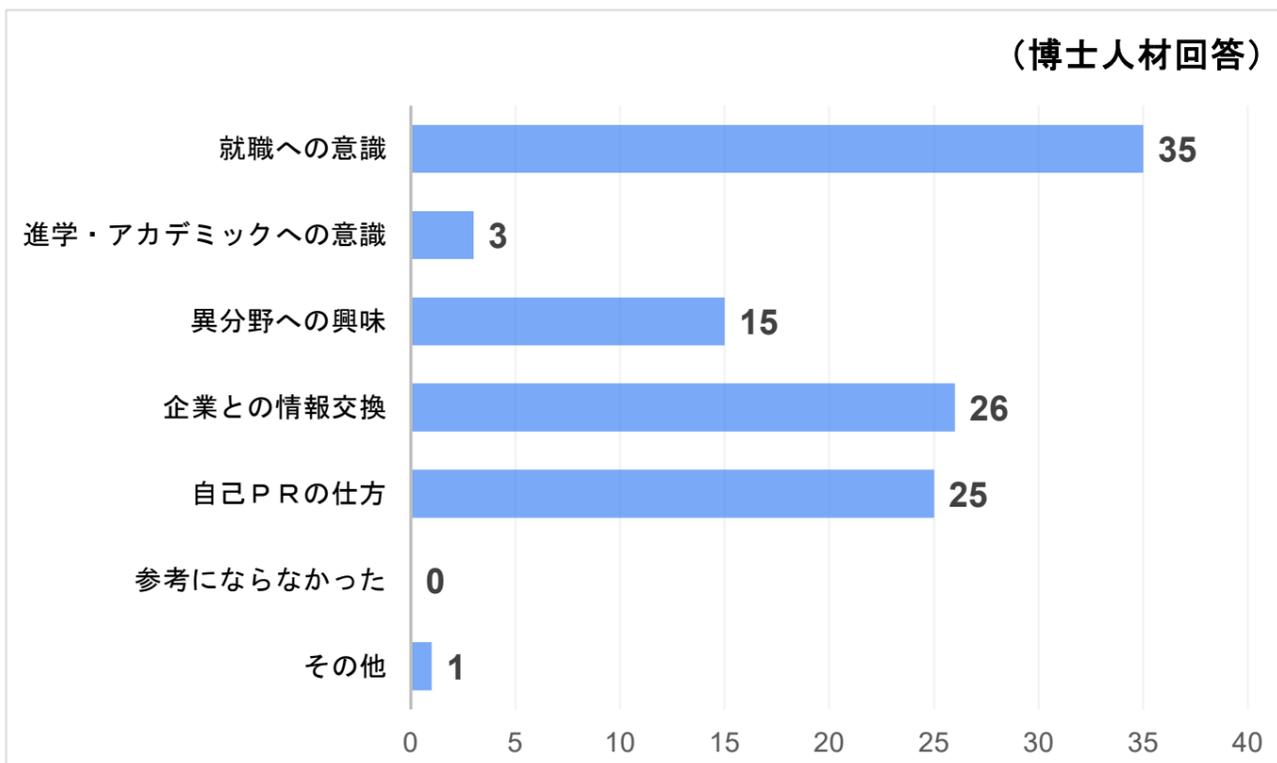
[9] 「赤い系会」への参加理由(複数回答可)(博士人材のみ)



[10] あなたは、今後の自分のキャリアパスをどのように考えていますか？(複数回答可)(博士人材のみ)



[11] 赤い系会はどの点が参考になりましたか？(複数回答可)(博士人材のみ)



[12] 「赤い糸会」へ参加して新たな気づきはありましたか。(博士人材のみ)

(博士人材)

1	各企業の博士に対する考え方
2	積極性が重要ということ。
3	自分の進路について見つめなおすきっかけになった。
4	企業研究が足りないこと。もっとふかくその企業を知らないといけないと思った。
5	思っていた以上に自身の専門分野で活躍できる場は広いと感じた。
6	研究内容自体のみではなく思考過程も重要であることが分かった。
7	参加していた企業は共通して、イノベーションを求めていること。不確定な時代を生き抜くために常にイノベーションを起こす必要があるのかもしれない。
8	これまで自身が身につけた分析技術や能力を重視してくれる業界が製薬だったということ
9	プレゼン能力の大切さが博士にとって研究能力と同程度以上に重要であること。
10	博士人材に専門性以上に課題解決能力等を重視すると言っている企業でも最低限の専門性のマッチは必要であること 研究開発職の役職の数に比例して新テーマの立案などが難しくなる(時間がかかる)傾向にあること
11	社風という感覚がいまいちつかめていなかったが、実際に企業のブースを訪問して交流を行うことで、その感覚を理解することが出来た。
12	えり好みせず色々な企業の話聞くのは、大事だと思った。
13	自分をPRすることは結構難しい
14	博士の採用フローがない企業も、博士の採用を望んでいる場合があること。
15	事前準備の情報収集がまだ足りなく表面的な質問に留まってしまったので事前準備の重要性に改めて気づきました。
16	分野の異なる企業で自身の技術に需要があることに気づいた。
17	それぞれの企業の研究内容を教えていただく中で、共感できる点異なることに気が付き、思いがけず自己分析をすることができました。また、私は志望業界を製薬業界のみに絞っていましたが、今回あえて製薬企業を1社しか訪問しませんでした。その結果、製薬業界以外にも魅力的な研究が多くあることがとても良くわかり、視野を広く持とうと思うきっかけになりました。
18	博士は専門性や研究能力を求められているのだと考えていましたが、他にも論理的思考力やリーダーシップを駆使した多角的な活躍を求められているのだということが分かりました。
19	名古屋大学主催の赤い糸会にも参加した企業から顔と名前を覚えていただけており、声をかけてもらうことができた。他大学の赤い糸会に参加するのも大切かもしれない。
20	あまり動画の効果を感じられなかった。当然、企業が求める専門性を持っていないことも一因。
21	コロナの影響で企業の方とフランクに話すことができる機会が減ってしまっているんだと思った。
22	専門外の方へのプレゼンテーションについて考えさせられた
23	自分の生きたい企業を探すのではなく、自分と合う企業を探すのが一番良いのではないかと感じた。
24	他の参加者の動画を見ると、皆が凄い経歴や研究結果を出しているのでも、自分の経歴と研究結果が貧相な物に見え、自信を失ってしまった。プレゼンスキルの磨くことは確かに重要だが、自分の研究結果や習得した(プレゼン以外の)スキルが弱ければプレゼンスキルは無意味なのではと思うようになってしまった。次回(第47回)の赤い糸会にエントリーした方がいいが、正直なところエントリー取りやめて研究とプレゼン以外のスキルを高めることに集中したい気持ちが高まっている。
25	業界研究、企業研究など私自身の勉強不足を痛感しました。企業の担当者の方々への質問内容から、私以外の参加者の皆さんは企業で実際に自分が働くことをかなり具体的に想定されていることが伝わってきました。そういった点から、私はまだまだ企業で働くことを具体的に想定できておらず、また、これは業界研究や企業研究を充分に行うことができていることを意味していると感じました。
26	HPや就職サイトでは分からないような企業が考える学生への希望や就職活動を行う上でのポイント、さらには就職後についてのことまで、密に話す機会があったことで詳細に聞くことができとても良かったです。自己アピールのポイントなども、より意識するきっかけになりました。
27	企業についてもっと調べてから行くべきでした
28	博士課程の学生は相対的に見て少ないので競争が比較的少ないものであると勝手に決めつけていた節があったのですが、今回集まっていた学生だけでも自分より多くの武器を有している方がたくさんいることに気付かされました。自信の強みを改めて見つめ直さなければならないと強く感じました。
29	SparialChatは使いやすく、コンタクトがとれました。
30	予想していたよりも情報系技能の必要性が全分野で求められているのを感じ、習得の必要性を感じました
31	BitBメインの企業は日常では接しにくいですが、このような機械でたくさん知ってよかった。
32	自らの専攻とは一見関係がなさそうな事業でも、大学での研究を通して培った研究能力を生かして活躍している研究者がたくさんいること

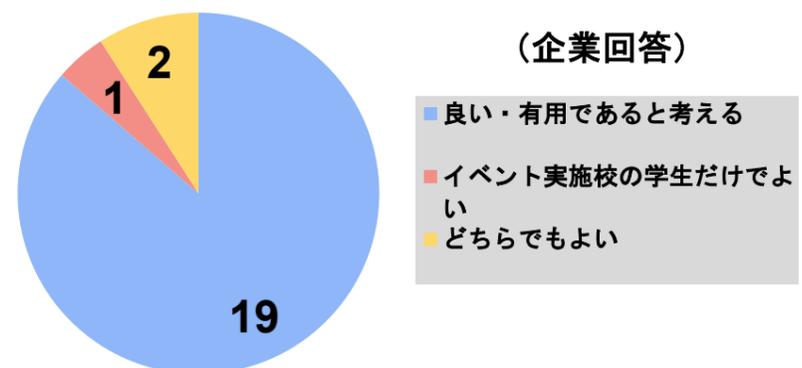
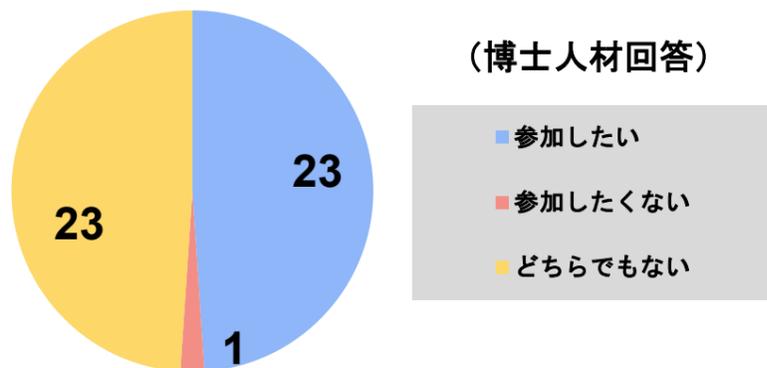
[12] 「赤い糸会」へ参加して新たな気づきはありましたか。(博士人材のみ)
(博士人材)

33	ほぼ全ての企業が、専門性以外に研究内容等を簡潔に伝えられる能力を博士人材に求めていることがわかった。今後の自己PRや普段の研究生活においても意識しようと考えようになった。
34	当然だが、企業によって研究方針が様々だった。特にテーマ立案に関してボトムアップなのかトップダウンなのか聞いてみないとわからないので、聞く機会が得られて有意義だった。 また、オンラインでのコミュニケーションがとても苦手なことがわかったので、面接に向けて対策していきたい。
35	思っていた以上に企業の方が専門性を必要としていないこと。博士で何をやってきたかという人物評価が強いということが印象として強く残った。
36	人数を絞り、1社1名対応で交流する方がこの会から直接選考及び採用につながる可能性が高いのではないかと感じた。
37	自分がどのような能力を持っていて、どのように就職に活かせるか考える良いきっかけになった。専門から学んだことよりも、そこからどのようなスキルを得たかを考えたことがなかったので、それを専門外の方から指摘されたり添削を受けることで気づくことができた。
38	企業の側から見る人物のポイント、またそれを考慮した対話や資料作成については実体験としてよく感じる事ができた。
39	専門外のことをやっている企業でも意外と活躍の場があること。
40	バックグラウンドを活かせる製薬企業以外にも視野を広げてみるきっかけになった
41	自身を企業に向けてどのように伝えるべきか
42	アピールすることの難しさ
43	化学・材料系の学生は思ったより色々な企業で求められているということ。
44	博士人材は、研究を深めたことがある。その経験があれば異分野でも研究を深めるポテンシャルを持っている。だから採用したいのだということ。自分が博士進学した判断は間違いではなかったと気づいた。
45	企業の動向について、一部副業が流行っているなといった印象を受けた
46	自己アピールの難しさ

[13] コンソーシアム(全9大学)の取り組みについて

連携校マッチングイベントに参加可能なことについて(博士人材)

連携大学の学生が参加していることについて(企業)



[14] 今後博士人材へ期待すること・要望など(企業のみ)

(企業)

1	研究に打ち込んで専門性と研究遂行力を磨いてほしい
2	課題解決能力に期待している
3	ポスター、交流会は、継続してほしい
4	自信がなさそうな方が多いので、もっと自信を持てるよう日々研究に研鑽していただきたいです。
5	将来ビジョンを描け、そこに向かって努力している・できる人になってください。
6	自律的に研究を推進できる能力や、博士課程から新規研究テーマ提案できる能力を磨いてほしい
7	おとなしい方が多かったので、積極性を持っていただきたいです。
8	高い専門性を社内で活かせることが必要だと思います。情報系の博士は少ない状況にありますので今後増えていくことを期待します。
9	専門性と社会課題解決への意欲
10	今年は自己分析(自分の軸)がまだ定まっていない学生が多いように感じたので、事前にもっと軸が定まっているとより赤い糸会を活用できると思います。

[14] 今後博士人材へ期待すること・要望など(企業のみ)

(企業)

11	当社としても、今後医薬品のみならず、幅広くヘルスケア業界での事業展開を考えておりますので、これまでに無いバックグラウンドをお持ちの学生の方もご応募いただければ嬉しいです。その観点より、ご自身の研究がどう生かせるかの視点でなく、社会で何をしたいかから掘り下げていけると、より一層活躍の幅が広がるのではないかと感じました。
12	研究領域外の幅広い知見と、自身の研究のコアの応用展開を語れること
13	博士人材は企業の研究所では即戦力として期待しております。自身で立案から具体的なアクション、レポートまで、一連の研究業務を遂行できる力を身に付けていただきたいと思えます。
14	専門性に加え、新しいことに挑戦する力
15	高い課題発見力と課題解決力
16	しっかりと研究すると共に、社会性を高めるために、アルバイト等も経験していること。
17	とにかく自分を鍛えて欲しいと思えます。
18	博士課程における専門的なスキルをぜひ深めて頂き、そのうえで幅広い視野を持って企業での開発者として活躍できる人材となって頂きたい。
19	理解してもらうための説明がいかに行けるか。博士人材に関わらず必要ですが、専門性をより深く追求しているが故に忘れてしまう視点かもしれません。
20	キャリア志向を持つこと。専門性によって視野を狭めないこと。
21	相手の立場にたってご自身の専門性をわかりやすく説明し、理解してもらえるような説明力、同時に相手に納得してもらえ合意できる交渉力を養ってほしいです。また、専門性は1つに偏らず、色々な事に目を向け、興味を持つことで、上記の力がさらにアップすると考えています。
22	おとなしく、積極性の低い学生が多く感じられました。オンラインで難しいとは思いますが、皆さんの高い専門性等をアピールする前に悪い印象を与えてしまうのはもったいないので、笑顔ではきはきとコミュニケーションをとる訓練をすべきかなと感じました。

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(博士人材)

1	博士人材が就活をやるにあたって、赤い糸会は非常に重要だと実感しています。
2	対面で参加してみたかった。
3	自身の研究についてアピールできる時間(博士側のルームに企業が参加するような形態等)があるとより充実した会になる気がします。
4	今回はチャット機能がなかったので、連絡を取りにくいように感じた。メールだとハードルが高い。
5	製薬企業に関しては年々募集が早まっており、今回の開催はES提出済みだったり、選考プロセスと重なったりしていた。進行中だからこその密なやりとりもできた反面、赤い糸会とESの準備のための負担が大きく、またES提出前に手に入れたかった情報もあったので、開催時期に関しては検討する必要があると感じた。
6	自己PR動画などの講習部分のみであっても受講可能であればうれしい。
7	自分の動画に対するフィードバックがあるといいと思う。
8	スケジュールをもっとわかりやすくしていただけると助かります。
9	グループ交流会はオンラインで1企業20分でしたが、企業によっては説明の時間が長く質問タイムが少なくなっていたため、会社説明会とあまり変わらないと思いました。また、懇親会も含めこちらからの質問ばかりになってしまったため、双方向の発信ではないと思いました。紹介動画やスペチャの活用など企業毎にバラバラで、わかりづらい部分もありました。
10	できあがった動画について客観的な意見(どういう印象を抱くか)を頂きたいです。
11	懇親会で記載されている企業がいなかったりしたので、実際に懇親会に参加される企業のみを事前に告知して欲しいと思いました。
12	別のアンケートでも書きましたが、作成資料の良い例というものを示すと参考になると思います。例えば、動画やポスター、自己PRシートなどは初めて参加する人(特に先輩がいない人)だと実際にどう書いていいかわからないので、良い見本を示すのは重要だと思います。
13	とくになし
14	提出物が少し多い。製薬企業以外の企業が増えて欲しい。
15	今回の赤い糸会での企業が製薬メーカーさんが多く私としては満足ですが、他にIT系企業がもう少しあればなと思いました。また土日開催や平日18時以降開催のイベントもあるとありがたいです。
16	様々な企業の方とここまで話せる機会は少ないので、非常に有意義でした。
17	個別訪問の中で1度だけ、企業の方と1対1で話す機会があり有意義な時間を過ごすことができ、とても満足しております。要望としては、企業の方々がどの程度自分の動画を見てくださっているかについて知ることができる仕組みを設けていただけるとありがたいと思います。

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(博士人材)

18	個別交流会にて各企業のブレイクアウトルームに入ろうとすると、選択画面において自分の入ろうとしているルームより上のルームに人が入ると、ルームに入るためのボタンがズレてクリックできずになかなかルームに入れなかったです。自分の動画やPRシートを提出するだけだったので、企業の方からの自分の研究に対する質問やPRの仕方に関する意見も貰える機会があれば良いなと思いました。
19	どの回にどの企業が来るのか、最初に知りたい。
20	ONLINEの限界を感じたが、その制限の中でとても良い機会だったと思います。ELMSのMoodleでの情報が見つらいと感じた。
21	特になし。
22	今年に限っては就活と時期が重なっており柔軟な対応があるとよいと思う
23	ONLINEでどこからでも企業の方と密に交流することが出来るのはとても良い経験になりました。個別交流のセッションの時間が少し短く感じましたが、その分たくさんの方と話すことができたので、今後の就職活動の参考になりました。
24	第2部 個別交流会のセッションの振り分けをもっと早めにやってもらいたかった。
25	私個人としては、研究職、開発職以外で博士人材を求めている企業の参加数を増やすとより良かったと考えております。
26	昨年に引き続き、今年もとても良い機会となりました。昨年以上に参加者が絞られていたことで、より近くで密にお話ができ、昨年以上に企業の方に質問ができたように感じます。
27	とても楽しかったです
28	特にありません。素敵な機会を用意していただきありがとうございました。今後はオフラインで安定して開催されることを願っています。
29	旭化成、住友化学のような化学メーカーの人と話したいです。ぜひ、第47回赤い糸会に参加させてください。
30	学会・TA業務などがあるので可能であれば夕方以降等の開催を増やしていただけると助かります。
31	Spatial Chatがうまくいかなかった。
32	開催時期を早めにしてほしい。他社の選考も始まっている段階で、赤い糸会直後にエントリー締め切りがあると赤い糸会がきっかけで企業に興味を持って間に合わない。
33	やはりオンラインだと1対1のやり取りとなってしまう、特に懇親会などで1人がずっと話しているような状況が多いように見えたため、(次回以降は対面とのことですが) 今後は対面形式の方が良いかと思った。
34	動画だけでなく博士学生側から発表する機会が欲しい。
35	スペシャルチャットに関しては少し不満が残る。企業の方が使い方を理解できていなかったということも仰られていた。また、自分が積極的なれなかったことを棚に上げてしまい大変申し訳ないが、オンラインだと会話から外れるタイミングが大変難しく感じた。結果各企業に複数の方が既に居る状態のまま抜けられなくなり、新たに会話に参加することが難しく感じた。たまたま最初に会話に参加できたが、どこにも会話に参加できずうろろしている学生が散見されたと感じた。
36	企業によっては説明会感覚できているところも多いように感じる。全企業がいい人見つけて採用するぞという意気込みで来ていただけると参加学生としては嬉しい。
37	自己PRなど就職活動の基本からサポートがしっかりしていた。企業が希望する博士人材についてよく知らなかったり、どのようにして就職活動をスタートさせればよいかよく知らない博士学生にとってとても良いイベントであると感じます。
38	博士人材としての就職活動に関してとにかく学びの多い会であり、参加できたことを幸運に思う。事前に互いの情報を確認できる、今回のような動画提出・オンライン形式での実施は、互いの基礎情報を知る初期段階の対話に時間の多くを割く必要がないため効果的に感じられた。要望としては、まず第二部の5・6巡目も先に調整をかけられると人員があまりに集中することがなく、企業としても先んじて学生の情報を見ておけるかと思う。希望者が多いところには行かず、というのは異業界の企業に足を運ぼうとしても同業種の学生が集中していると入れない場合があるため勿体ない。また第三部の懇親会において、後半既に企業の方がいらっしやらないブースが複数見られたのは残念であった。お仕事の都合もあるかと思うが、当日直接に対話できる機会は貴重であるため、可能であれば時間内はブースに待機いただきたいのが正直なところ。
39	今回はオンライン形式ということで、反省会以外で博士人材同士の交流の機会が少なかったため、そのような機会が増えればよいと思いました。
40	今年は赤い糸会を開催する前に大半の大手製薬企業のES締め切りが過ぎてしまっていたため、来年は7月くらいに開催するとよいと思う
41	特になし
42	特になし
43	特になし
44	こちらからPRする機会があればよかったと思う。
45	参加企業がどこの博士向けの企業イベントでも見るような大手ばかりなので、もう少しベンチャーや中小企業の参加を促進してほしいと感じた。
46	特になし

[15] 全体を通して、「赤い糸会」についての感想など

(企業)

1	とても有意義でした
2	本日はセッション1-4に参加する学生はありませんでしたが、5、6では参加する学生もあり、博士人材の方とお話しできて非常にありがたかったです。また、このような機会に参加させて頂ければと考えております。
3	非常に良いイベントである
4	ファイルやシステムが乱立しており、ファイルを探す手間がかなりあります。(ファイルパスワード用の資料などは不要)多くとも5ファイルくらいの資料に収めて、複数回にメールを分けず一度にご送付くださいませ。よろしく申し上げます。
5	貴重な機会をありがとうございました。
6	特になし
7	個別交流会が1セッション4名までだったので、昨年のようにもう少し多くの学生さんと触れ合えると良いです。
8	今年は特にプログラミングやIT企業に興味を持っている方が少ないと感じました。参加されている学生さんも就職と言う興味ではなく、IT企業が珍しいと言う雰囲気であったと思います。意見交換や異業種交流の場として興味を持って話をしに来ていただく学生さんは良いですが、そうでないと話が続きにくいお互い辛い状況になり、良くないと感じました。
9	学生の指導を非常にしっかりやられていると思います。私が参加した赤い糸会の時代から大きく進化されていると感じました。
10	年々赤い糸会が進化していくのを感じています。今後も参加させていただくことがあるかと思いますが、引き続きよろしくお願いいたします。
11	少人数の交流をオンラインで実現していただき、とても有意義な時間を過ごせました、ありがとうございます。開催時期がもう少し早め(夏前頃)ですと非常に有難かったです。
12	学生に自社の理解を深めてもらうよい機会であった
13	スペシャルチャットは初めての体験でしたが、操作もわかりやすく楽しめました。学生さんも気軽に話しかけていただけましたのでリラックスした雰囲気での会話ができました。会社の仕事についても理解していただけたのではないかと思います。
14	コロナ禍で大変な時期に開催いただきありがとうございました。6回のタームの時間が短く、交流が十分でない回もあったので、定員8名程度、30分くらいが望ましいかと思いました。
15	コロナ禍でも、しっかり企画・運営していただけてありがとうございます。当社に興味のある学生と、オンラインでも十分に相互交流ができました。来年度もぜひ参加したいと思います。
16	有用な取り組みであると思いました。但し、当社のような知名度の低い会社の場合は、学生の注目度が低いことを実感しました。
17	北海道大学の学生のレベルは高く、毎年楽しみにしています。
18	全体を通じて少人数でのお話できた点が非常に良く、特にSpatialChatでの交流会は参加された学生の方と深く交流することができました。貴重な機会をありがとうございました。
19	選考がスタートしてしまっていたので現在就職活動をしている学生さんにとってはメリットをご提供できなかった点が残念です。
20	積極的(企業就職に対して前向き)な博士人材の方が多い印象があった。
21	博士の皆さんが、動画を作成したり、たくさんの質問をご用意いただいたり、就活に向けての熱意と努力を感じられる機会でした。ありがとうございました。 可能でしたら、9月は製薬企業の選考がすでに始まっている時期のため、1か月ほど時期を早めていただけると大変ありがたいです。 また、個別交流会でご参加いただける博士の方のお名前が分かると、企業側も準備ができるため、より深い交流ができると思います。
22	今回はオンラインということもあり、淡々と会が進んであっさり終わってしまった印象がありました。またオンサイトの頃のようなポスターを見ながら会話する機会がなく、企業側が質問を受ける時間ばかりだったので、学生の研究についてのディスカッションができませんでした。

[16] J-Window(人材育成本部教員との面談・エントリーシートなどの添削・面接練習)を希望しますか(博士人材のみ)

